請願第３号

受付
-5. 8. -9
京都府後期高齢者医療
広域連合

後期高齢者医療制度の保険料･窓口負担の緊急引き下げなど制度の改善を求める請願書

紹介議員　巽　悦子

請願の趣旨

1　後期高齢者医療制度の保険料を引き下げてください。
2　75歳以上の医療費窓口負担2倍化の中止を求める意見書を国に提出してください。
3　京都府後期高齢者医療制度の保険料・窓口一部負担金の減免制度を拡充してください。
4　新型コロナウイルス感染症の影響による保険料減免、新型コロナウィルス感染症に係る傷病手当金を継続するとともに、利用要件の緩和など制度の改善を行ってください。
5　後期高齢者の健康診査への補助を拡大してください。

請願の理由

昨年10月から京都府の75歳以上の後期高齢者医療被保険者の約38万人のうち約7万7千人の方が2割負担になりました。このうちの628人の患者さんに京都民主医療機関連合会がアンケートを行いました。2倍化後の負担が「とても重い」「重い」と答えた方は90%にもなります。患者は、「デイサービスの回数を減らそうと思っている」「薬を減らしてもらうことを先生と相談した」「これに介護負担が増えればアウト」などと回答しています。

2割負担後の受診は「いままでどうり」と回答している方が78%ですが、多くの患者は「生きるために医療は削れない」からです。

また、物価高騰・年金支給削減などで、高齢者の生活は厳しい状況になっています。年金者組合京都府本部女性部が取り組んだ「2022年女性の暮らしアンケート」（回答総数1,550人）では、「年金月額10万円以下」が46%で、5年前よりも10ポイントも10万円以下の低年金で暮らす方が増えています。暮らしの実感をお聞きすると「大変苦しい」「苦しい」と回答された方は27%ですが、「普通」（69%）と答えた方の多くは「外食を減らしたり、服の購入をやめたり」するなど切り詰めた生活を余儀なくされています。また、健康状態でも「あまり良くない」「通院中」は37%となっています。そのなかで、「負担が大きい」と答えた方がもっとも多かったのが「医療保険・介護保険料」です。

こうした後期高齢者の健康と生活実態のなかで、高齢者の暮らし・いのち・健康を守るために、窓口負担2割化の中止や保険料の引き下げと、新型コロナウイルス感染症による保険料減免・傷病手当金制度の改善が急務です。

さらに糖尿病・心臓病・脳卒中などの生活習慣病の発症や重症化を未然に防ぐために、受診料金を引き下げ、受診しやすくすることも必要です。

2023年8月9日

京都府後期高齢者医療広域連合議会議長
下村　あきら 様

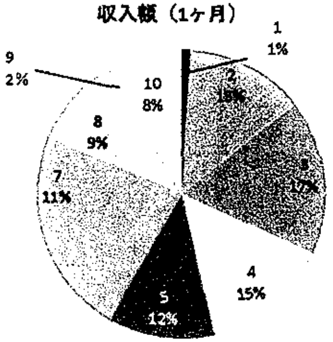
請願者　住所　京都市中京区壬生仙念町３０－２ラボール京都６Ｆ
氏名　京都社会保障推進協議会議長　渡邉 賢治
電話　075-801-2526

―2022年 女性の暮らし実態アンケート集計結果―

2023.2.1　　年金者組合京都府本部女性部

全体集計（回答総数1550）

収入額（1ヶ月）



収入月額

	金額	人数
1	0	16
2	～50000	202
3	～75000	260
4	～100000	221
5	～125000	178
6	～150000	177
7	～175000	172
8	～200000	136
9	以上	23
10	未回答	120

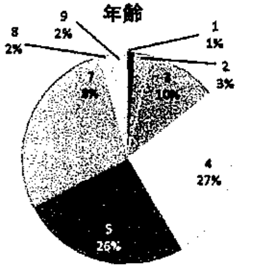
コメント①

◎月額１０万円以下が46％
５年前調査では　36％

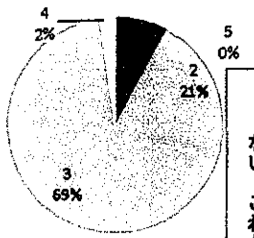
こんなに年金が
下げられた！

	年齢	人数
1	～59	17
2	60～64	40
3	65～69	158
4	70～74	411
5	75～79	388
6	80～84	309
7	85～89	117
8	90～	38
9	未回答	27

年齢



くらし実感



くらしの実感

	実感	人数
1	大変苦しい	114
2	苦しい	308
3	何とか普通	1003
4	ゆとり有	34
5	その他	0

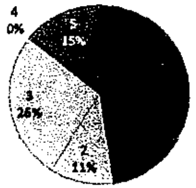
コメント②

でも、「外食も旅行も美容院も行かない。服も本も買わない。これが普通か」

健康状態

	状態	人数
1	ほぼ健康	706
2	余り良くない	166
3	通院	386
4	通院できない	5
5	未回答	213

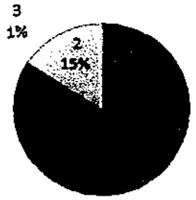
健康状態



組合加入

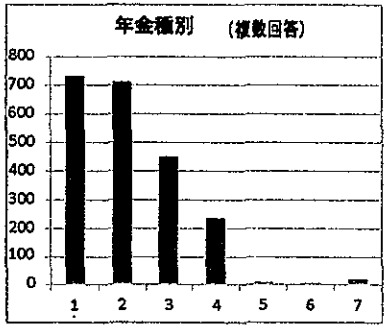
	有無	人数
1	有	1224
2	無	223
3	未回答	10

組合加入



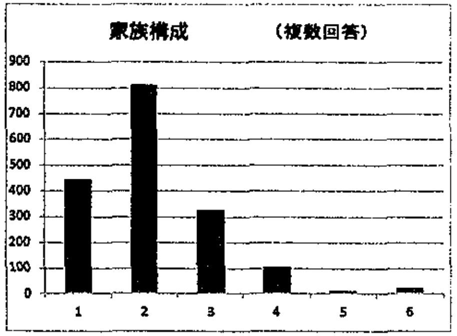
年金種別（複数回答）

	種別	人数
1	国民	731
2	厚生	711
3	共済	452
4	遺族	236
5	障害	9
6	無年金	3
7	未受給	18
8	記入無し	



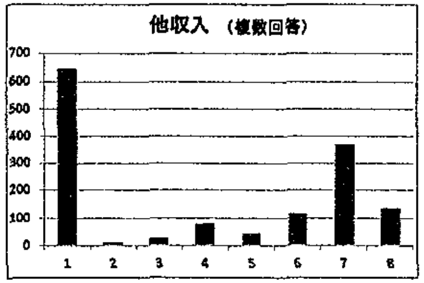
家族構成(複数回答)

	構成	人数
1	1人	441
2	夫婦2人	809
3	未婚の子	324
4	既婚の子	103
5	施設入居	7
6	その他	19



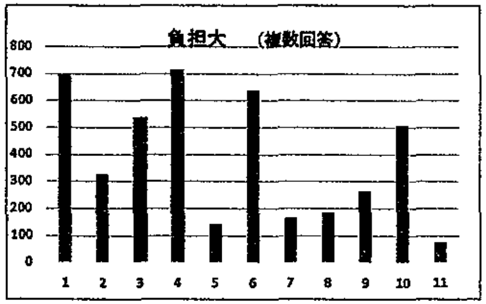
他収入

	種別	人数
1	夫の年金	645
2	親の年金	9
3	生活保護	24
4	子の援助	79
5	自営業	41
6	賃金	113
7	貯金切崩し	367
8	その他	135



負担大は？

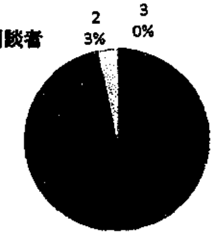
	種別	人数
1	食費	693
2	住宅費	326
3	医療費	536
4	保険料	713
5	介護費用	142
6	水道光熱	638
7	交際費	164
8	交通費	188
9	電話料金	263
10	税金	508
11	その他	74



相談者

	有無	人数
1	1	1389
2	2	40
3	未回答	7

相談者



コメント③

◎負担感がおおきいのは
・保険料（国保・介護等）！
・食費！　　・税金！
・水道光熱費！

私たち、国や自治体にひどい目にあわされている！

女性のくらし実態アンケート（2022.9～11実施）の「声」602件からの抜粋

2023.3.1 京都府年金者組合女性部

年金

①月5万円です。食費だけでも足りません。本当に本当に苦しいんです。
②国民年金のみで家賃を負担している人は、どうやって、やりくりしても到底やっていけない。生きていることが難しい。制度として最低限の年金の保障をするか、生保を約束する必要がある。企業の内部留保金を活用するべきか。
③年々控除後の振込額が下がり、介護保険料、個人住民税、所得税などあきれます。消費税とわずかな年金から次々と、何重にも吸い取られています。どうなっているのか！住居も老いて、あちこち修理が必要となる頃に年金者となり、朽ちる家を見ていると自分と重なります。これ迄社会に貢献してきた人に優しい制度であってほしいです。生活の心配をせず暮らせる政策を！
④年金のマクロ方式を取りやめてほしい。国民健康保険、年間２０万円は厳しすぎる。
⑤せめて生活保護並の年金に引き上げてほしい。
⑥20代に病気でそれ以降アルバイトなので年金は非常に少ない。保険料、介護保険料を引かれた後、医療費に使用して少しの残金です。「ガン」で11年、日赤で、後は様々な病が出て検査料が高くて残るものも少々です。物価、敬老パス代、医療も高くなる一方、年金から引かれるのがあり大変な日々です。富裕層は別にしても、困っている庶民の暮らしを考えてほしい。

くらし・物価

⑦普通に暮らしている」とは、病気をしていない、旅行はしない、服、化粧品は買わない、古本しか買わない、からで、一度何かあれば「苦しい」になるのは目にみえている。
⑧水光熱費を極力減らす努力をしている。コロナ禍で、演劇、映画等の文化活動、姉弟や孫との外出もしてないので、何とか暮らせているが、これが普通といえるのだろうか。
⑨最近の物価高にくらしがついて行かない、食費、光熱費、医療費の高騰はくらしを直撃します。なのに年金は削減され、食べることを我慢し、コロナ、熱中症、インフルエンザの中でもエアコンを我慢、医者通いも2倍になると回数を減らし何とか暮らしていた毎日も苦しくなって若者はそれ以上に、頼ることがむずかしくなりました。
⑩死ぬまで働き。生活保護受給か働かなければ終わる。江戸時代と変わらない！
⑪固定資産税、健康保険料、介護保険料 etc。朝の洗面は洗面器にためて、歯みがきはコップ２杯の水で。でもぴぴたるものですね。
⑫貯金の残高とにらめっこ。社会保障の後退と各保険料の値上げ、詐欺にあっている気分。生きるための全ての物が値上がりし、今まで経験したことのないような息苦しさを感じています。
⑬飲食店はお客様のもどりが　今一つで収入減。物価高で仕入れも大変でも価格はあげられません。消費税を下げてほしい（できれば無くしてほしい）

医療・介護

⑭102歳の義母を9月に見送りました。医療費、介護費・・・大変でした。国民年金月3.5万円で、入院月7万円＋着替えレンタル料月3万円にびっくり。面会も出来ずお金だけかさみます。
⑮9月の医療費20850円窓口払い、これが10月から41700円です。窓口負担を1割に戻して。
⑯医療費が2割になり大変。年をとってくると医療費がかかるのに何を考えているのでしょう。夫は週3回デイサービスに行ってます。介護費も上がっています。定期訪問や歯科の訪問診療も２割負担。政府は高齢者をもっと大事にしてほしい。私も腰痛だが介護の為通院できない。
⑰訪問看護週3回1回1時間では不足。ショートステイも高く継続は無理。国葬に使う税金を年金に。
⑱介護保険、後期高齢者医療保険、市府民税等をがっぽり引き去られ、物価が上がり、医療費が２割になり、食料品と言えば夕方の割引の物や訳ありの品物ばかりを買っている。83歳
⑲夫婦での国民健康保険の額が、夫が後期高齢者になり、私の保険料は少し減ったが夫がすごく高額、結局２人の合計が今までの２倍ほどになり困っています。
⑳何カ所か病院に通うと1000円札がとんでいくのを実感する。
? 医療と介護が必要になる年齢に追い打ちをかける悪政、「棄民」としか言いようがない。

まちづくり・交通・家など

? 原付バイクが交通手段だが2024年で切れてしまう。他の交通手段が少なく困る(75歳)
? 車に乗れる間はいいが、のれなくなったら医者通いもできない不安。免許のきりかえ、どうしたものかと悩む。市役所へ行くため、加茂から直通のバスを！（88歳）
? コミュニティバスを走らせて欲しい。(買い物、病院行き)
? 年金収入が月額にして10万、家賃が7万近くなので、ずっと貸貸を探しているが、年齢で断られる。「公的住宅（近場で）を単身老人に解放してほしい」というのが最大の願いです。
? 数年位前から家全体が傾いて修理代がない。家が先か命が先かが今の現状です。84歳
? 毎月赤字で預金を年70～100万取りくずし。これからのくらしどうなるのだろう。生活して行けません。屋根も老朽化いつ修理するか不安。水漏れも発生。誰に聞いても不安だらけ。
? 高齢者が気軽に会場費も安く集まれる場所がほしい。敬老乗車証制度元に戻してほしい。交通費負担。空き地が一杯ある、マンションでなく福祉施設（公民館）などほしい。
? 野生動物の被害。最近、熊が家の周りに出没。その他鹿、イノシシ、さる。

家族・子ども

? 正社員で45年働きました。今、孫が私を頼っています。（88歳）
? 娘家族への援助（教育費・生活費）があります。若い世代が普通に暮らしていけるよう授業料引き下げや、パート労働を取り巻く税制度の改善をして欲しいです。
? 通所している息子の将来。人との付き合いが苦手であってもできる仕事は沢山あり、そんな若者が多くいる。マッチングサポートの制度があれば親も安心して死ねるのにと思う毎日です。
? 同居の息子は収入ゼロ。82歳

女性・一人暮らしなど

? 男女不平等による賃金格差が、定年退職後にもずっと続くのが現状。これが改まらない限り女性の不利は是正されない。
? 夫婦２人なので普通に暮らしいている。どちらか一方になれば、水・光・熱費等、生活に基本的に必要なお金が２分の１になるとは思えないので、ひとりになった時不安です。

その他

? スマホ、保険証、免許、通帳…マイナンバーカードになんてとんでもない。カードはしっかりしまっておくようにだったのに持ち歩くなんて、忘れることが多い私なので怖いです。71歳
? 補聴器を買いたいが高額すぎるので躊躇している。
? 自分もまわりの高齢者も“情報難民”になり、情報格差も生まれている。
? 物価は高騰、年金は下がる、医療費は10月から２割…一方、国葬に無駄金、軍事費２倍化。この国は政治が無いのでしょうか？　国民目線の政治家を選挙で選ばないとダメですね。
? 世界の情勢もほんとに日本は大丈夫なのか？と不安です。戦争だけはなってほしくない。

75歳以上の医療費窓口負担の2倍化アンケート調査結果(京都民医連実施分)

2023/6/8　京都民医連 高梨 輝子

全日本民医連は、75歳以上の医療費窓口負担の2倍化について、2022年10月の実施後の影響アンケートを行い、京都では12月～1月の2か月の期間に8法人28事業所、1219人から回答をいただきました。本日は、75歳以上の回答者969人の結果の概略を報告します。なお、全国では、15,368件のアンケート調査となりました。

75歳以上で2倍化になったと回答した628人中、179人(28.5%)が「とても重い」負担感と回答。一方、2倍化以前についても、「とても重い」負担感は 104 人(16.6%)でした。ちなみに、2倍化後の負担感「とても重い・重い」を合わせると90%となります。

当事者からは「ディサービスの回数を減らして医療費に回そうと思っている」「薬を減らしてもらうことを先生と相談した」「これに介護負担が増えれば完全にアウト」などの声がありました。

2割負担後の受診は「今までどおり」と492人(78%)が回答。「生きるために医療は削れない。苦しいが他を削って何とかするしかない」というコメントを反映する結果と考えます。全日本調査結果も同様の傾向でしたが、神戸大学の井口教授は、2倍化制度について「社会保障制度の後退で、即時、撤回が必要だ」と批判され、憲法 25 条や国際人権規約にも違反すると指摘したうえで、社会保障費の確保には、大企業への課税強化が有効な方策だと話されました。

アンケートでは、2025年まで外来の負担増を月3000円以内に抑える「配慮措置」についても質問しました。この制度を使うには手続きが必要ですが、調査では「手続きをしていない」と回答(複数回答項目)した人が 463 人で、その約半数が「手続きの仕方がわからない」と回答しています。これらについて、佛教大学の長友准教授は「政府は配慮措置の利用を促す必要がある」と述べておられます。政府が示す軽減配慮は、あくまでも「配慮」であって、「わかりにくい」「手間がかかる」制度設計にわざとしていると思わざるをえません。

最後に、アンケートのコメントを少し紹介します。「糖尿病の薬は減らせないがその他は減らしたい。激変緩和はいずれなくなるし、ごまかしより2割中止をすべき。どこかで辻褄合わせをするのでは経済がよくならない」「高齢者は年金が減る一方で医療費が増え、経済的にひっ迫しています。そのため、受診できず病気の悪化につながる事例も見られます。医療福祉への財政見直しをしてほしいです」「2割負担はきつい。1割負担との年収とさほど変わらないのに2倍とは。少子高齢化になるのは以前からわかっていたはず。その手当をせずに急に負担増とは本当に困ったものだ」などです。

日本国憲法第二十五条は、(1)「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」(2)「国は、すべて の生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と規定しています。

物価高騰が続くなか、高齢者の暮らしはじわじわと厳しさが増しています。京都民医連では、今年の秋に、1 年後の追いかけ調査を行うとともに、元に戻せの運動を強めていきたいと考えています。京都民報6月4日号にも掲載いただきましたので併せてお読みいただければ幸いです。

京都民医連　75 歳以上医療費 2 割化実施後アンケート調査報告

2023 年 3 月 25 日　まちづくり政策部

【調査概要】

1．調査目的

1 割から 2 割に負担があがった 75 歳以上の高齢者を対象としたアンケートを実施し、医療費の窓口負担の負担感及び受診抑制等の受療権への影響を調査・公表する。

2．調査対象者

1 割から 2 割に負担が引きあがった 75 歳以上の高齢者。但し、上記以外(1 割や 3 割)、及び、75 歳未満の回答も可とするが、統計処理は 75 歳以上を対象に実施する。アンケート調査は、京都民主医療機関連合会(以下、京都民医連)加盟の病院・診療所に通院する 75 歳以上の高齢者に任意に協力を依頼した。

3．調査機関

2022 年 12 月～2023 年 1 月まで

4．調査方法

全日本民主医療機関連合会(以下、全日本民医連)が作成したアンケート用紙を使用。

5．アンケートの設問：添付アンケート用紙参照

6．調査件数＝有効回答数 1219 人

【回答について】

1．全回答者(1219 人)の 75 歳以上と未満の内訳

75 歳以上　969 人 (79%)　75 歳未満　250 人 (21%)

2．75 歳以上(969 人)のうち、2022 年 10 月以降の負担

2 割負担 628 人 (65%)　1 割負担　320 件(33%)　未回答　21 件(2%)

3．75 歳以上で 2 割になった人の、10 月以前の負担感と、2 割後の負担感の変化

10 月以前：とても重い 104 人(17%)、重い 283 人(45%)、普通 218 人(35%)、軽い 16 人(2%)、未回答 7(1%)

10 月以後：とても重い 179 人(29%)、重い 340 人(54%)、普通 101 人(16%)、未回答 8 人(1%)

○アンケートは実施後 3～4 ヶ月内で、まだ受診回数も少なく、負担の実感も比較的薄いと思われる時期にも関わらず、負担感が増えていることが特徴。「とても重い・重い」が 62%から 83%に増加している。受けとめは「2 割化」ではなく「2 倍化」。

【負担感に関する当事者の声】

●以前の倍の支払いで経済的に負担が大きい。以前年間 10 数万が 20 数万になる。

●一時だったけど、1 割負担のありがたさを感じたので夫と共に 2 割負担になったのは負担感が大。つい最近、夫がデイサービスに通うようになり、そちらの負担も 2 割。保険料(健康保険・介

護保険共に)高額払っているのに。そんなに特別多い収入とは思えないのになぜ。

●負担が倍になってとても負担感の重さを感じる。受診を減らす訳にはいかないし、困っている。

●7月生まれで2ヶ月だけ1割の体験後の10月からの2割の負担感はハンパじゃない!(怒)

●2割負担はきつい。1割負担の時と年収は変わらないのに2割とは。少子高齢化は以前からわかっていたはず。その手当をせずに急に負担増とは困ったものだ。

4.「75歳以上で2割」になった人の受診動向の変化 (重複回答)

1) ①今まで通り受診 492人 ②受診をためらうようになった106人
③受診回数・薬を減らす22人 ④食費を削って受診する38人
⑤交際費を削って受診する67人 ⑥水光熱費を削って受診する55人
⑦預金を切り崩して受診する81人 ⑧これ以上切り詰められない39人
⑨家族に支援してもらう23人 ⑩このままでは受診できなくなる15人

2)「今まで通り受診する」と回答した人の重複回答 1)の番号と同じ
②34人 ③22人 ④38人 ⑤67人 ⑥55人 ⑦81人 ⑧39人 ⑨23人 ⑩15人

○「今まで通り受診する」が628人中492人(78%)と多い。選択欄の横に「医療は削るわけにはいかないから」などの書き込みが数件あった。「今まで通り受診する」人の複数回答の内訳からも、何かを切り詰めている実態が反映している。病気になる、しかも長期化や重症化が予測される高齢者にとって、医療保険が「命綱」であること、社会保障の最たるものであることが伺える。食費、交際費など出費の何かを削って医療費に回す、援助を求めるなどの回答もある一方、「切り詰めるのは限界」「薬を減らす」「受診を控える」など、物価高騰等の背景もあり、生活そのものがギリギリの状況にある書き込みも多く見られた。

【受診動向に関する当事者の声】

●受診できると思うではなくて、体が第1なので、なんとしても受診するように努力します。

●2割負担は重い。しかし命、健康は守らなければいけないので、ここにお金を使わざるを得ない。

●命の問題であり、受診薬を減らすわけに行かない。

●糖尿病の薬は減らせないがその他については減らしたい。激変緩和はいずれなくなるし、ごまかしより2割中止をすべき。どこかで辻褄合わせするので経済がよくならない

●医療費が増えたのは痛いけど、病気は治したいので受診や薬は今までどうりにしていきたいと思う。2割になる線上を少し超えただけの年金なので苦しいのは苦しいですが、若い方に負担をかけているのでなるべく健康でいられるよう心掛けたいと思う。

●2割負担は重いですが、高齢で独居なので体調は整えていたいので病院は受診します。

●持病を持っているため、医療費が高くても受診しない事が出来ない。生命には変えられない。

●医療費が突然2割負担となり、受診するたびにこれまでの2倍という額がとても高額に感じます。歯科の定期的なメンテナンスのような出費はためらわれるようになりました。でも家族に迷惑をかけず健康でいるための医療をそうそう削るわけにもいきません。

5.「75 歳以上で 2 割」になった人で激変緩和措置について（重複回答）

①手続きしていない 314 人、 ②手続き済ませた 181 人

③手続きわからない 149 人　④手続き煩雑 15 人

○配慮措置として、3 年間に限り、1 ケ月の負担が 3 千円以上増えない措置が講じられた。月の医療費総額が増加した分のうち、3 千円を超えた分は償還払いとなる。受け取るためには、高額療養費の手続きが必要とされているが、手続き済みは 29%。手続きしていない人のうち約 50%の人が手続きの仕方がわからないと回答している。まさに「配慮措置」の域を出ていない最小限の行政対応といえる。

6.「75 歳以上で 2 割」になった人で 3 年後を予想して

①いままで通り受診できると思う　350 人(57%)

②受診できなくなるかもしれない　114 人(18%)

③受診回数・薬を減らすと思う　151 人(24%)

④受診できなくなると思う　8 人(1%)

○実施直後の「今までどおり受診する」492 人(78%)が 3 年後の予想「今までどおり受診できると思う」では 350 人(56%)に減少した。自由記載には、「3 年間(お金が)持つかどうかもわからない」「今の病気が重症化したり、別の病気が出たらと不安」「介護保険と併せて考えなければならないので予想が立てられない。苦しくなるのは間違いない」などがあった。

【高齢者の暮らしの実態　当事者の声】

●年金が少ないので後期高齢者になった今も働いている。保険料も多額を払っている。今の処医療費は生活費を節約しながら何とかしているが薬も減ることはなく増えるばかり。この先不安。

●3 割から 1 割になり、2 割になった。1 割の期間は少なかった…。週 3 回清掃の仕事をしているが、あと 2 回増やしたいと思ってる。けどなかなか仕事ない。

●私、今 81 歳ですが、何とか警備の仕事をやっていますが、いつ止める事になるか不安です。こうなったら医療費がもちろんですが生活自体が心配です。

●昨年 12 月に誕生日を迎え 75 才になってやっと 1 割負担になり喜んだのも束の間、2 割負担になってとても悔しい気持ちです。老人二人暮らしで食費はそんなに必要ないものの、ガソリン代灯油代は寒さしのぐには我慢できません。車庫の修理費用もかさみます。人生終わりに近づく程お金がいることに(病気は増えるばかり)気づきました。

●2 人で暮らしていますが、一人の収入で少しオーバーするくらいなのに、2 人共の保険料が 2 割になるのは非常に厳しいです。病院に行くのが楽しみな人はだれもいません。元気でいたいからこそ病院へ行くのですからぜったいに値上げは許せません。

●主人も 2 割になったが、2 割になったとたん、歯科口腔外科に行かないといけなくなった。緩和措置が今はとられているが、負担感はかなり重くなったと思う。食事や光熱費はこれ以上削れ

ない。こういった制度を考える人たちは、私たち一般の人たちの生活状況はわかっていない。我慢にも限界があるということをわかってほしい。

【制度や政治に関する当事者の声】

●高齢者は年金が減る一方で医療費が増え、経済的にひっ迫しています。そのため、受診できず病気の悪化につながる事例も見られます。医療福祉への財政見直しをしてほしいです。

●年金がどうなるかわからないのに医療費が増えるのは大変負担に思う。今後年齢を重ねるごとに受診する機会が増えると思うので生活していくのにとても不安です。

●年齢が上がると内科や整形など受診回数も増え、医療費がかさみ生活費に影響します。負担割合を下げて欲しいです。

●年齢を重ねると、どうしても身体的に悪くなるので、医療費が増えるのはあたり前である。若い時に充分保険料を払っているのに矛盾を感じる。

●区役所に相談に行ったが返事が無かった。『国が決めたことだから仕方がない』と言われた。

●ほかに介護保険を受けているので、制度改悪があるとたいへんなことになりそうです。要介護のつれあいがあるので。

●多くの病気を持っている老人は受診ができなくなります。夫婦とも重大な病気を持っている今、明日を生きる意欲はすでになくなっています。

●10 月の医療費総額が大きくなっていたのでビックリしました。健やかな人生を送りたいけれど、果たして今後の老後が健やかに送れるのか心配です。

●現在の後期高齢者の受けている「処置(2 割負担)も元に戻してほしいが、これからの高齢者数は増えていくことを思うと社会保障制度の本来的改革が必要と思います。83 才の私に出来ることが少なくなっているので(体力的)くやしい。

●今まで生きて来られてこのまま命を全うしたい。受診と薬が安心して受けられる様に

●今後大病にかかることはあると思います。そのことを考えると 2 割負担は心配です。

●高齢になり通院回数がますます増えていくと思います。倍額負担はきついのでできるなら元に戻ってほしいです。

●現在は 2 ヵ月に 1 回通院し診察と薬を供給してもらっているが、他の大病や入院などになると、大変な事になるのじゃないかと、不安があります。何とか、1 割負担に戻してほしいです。

●高齢者は早く死ねと言われている様な政治はおかしい。今まで頑張って働いた者に心ある政治を求める。形だけの敬老の日は必要ない。

●2 割になってから初めての支払いのとき、予期していたものの、窓口の人に思わず「高くなりましたねえ」と言いました。窓口の女性は困惑した表情で見つめられました。200 万円の所得基準では支払いできない人が多数出てくる。年金生活者の実情を理解しない政治に腹が立つ。

【アンケート結果のまとめ】

高齢者のいのち、健康・人権を脅かす 75 歳以上窓口負担 2 割化の中止を求める。

①2 割になったことにより、負担感は大幅に引きあがった。

「とても重い」12 ポイント、「重い」9 ポイント、それぞれ増加した。一方、「普通」が 19 ポイント、「軽い」が 2 ポイント、それぞれ減少した。

②約 8 割が「今までどおり受診する」と回答しているが、複数回答内容や自由記載欄からは、何らかを削って医療費を捻出せざるを得ない状況がうかがえる。

命に直結する医療を削ることができない。

③12%の人が「預金を切り崩して受診する」と回答しているが、預金が底をついたらどうなるのか？“金の切れ目が命の切れ目”とならない社会保障が必要。

④光熱費を削って受診する(8%)、食費を削って受診する(6%)等他にも、介護サービスを削ったとの記載もあった。介護も医療と同様、命の質、人生の質に直結する社会保障であることが浮かび上がる。

⑤受診をためらうようになった(17%)、これ以上切り詰められない(6%)など手遅れ死亡の予備軍を生まれる事を懸念する。

以上